

2025年度「公益財団法人 柿田川みどりのトラスト」事業報告書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

1. トラスト事業（公1）

（定款第4条(1) 柿田川湧水群流域の土地等の取得、借上げ及び管理）

(1) 土地の買収、借上げ

ア. 買収 土地の新規買収

- ・新規 なし

イ. 借上げ

対 象 地	面積 (㎡)	価格 (千円)	単価 (円/㎡)
・継続			
清水町柿田小字柿添 51-1, 52-2, 3, 53-1	905	150	166
・新規 なし			

(参考—既買収地 5532.12㎡)

対 象 地	面積 (㎡)
1号地. 清水町堂庭字広フケ 23	191.00
2号地. 清水町堂庭字広フケ 38	985.70
3号地-1. 清水町柿田字川端 79-1	230.04
3号地-2. 清水町柿田字川端 79-2	646.69
4号地. 清水町堂庭字大宿 48-1	299.00
5号地. 清水町伏見字泉 85-2	520.00
6号地. 清水町堂庭字広フケ 24	670.76
7号地. 清水町堂庭字広フケ 35	894.88
8号地. 清水町堂庭字大六天 14-1, 2	273.83
9号地. 清水町堂庭字大六天 16, 17-18	139.00
10号地. 清水町堂庭字大六天 17-15	158.00
11号地. 清水町堂庭字大六天 20	390.00
12号地. 清水町堂庭字大六天 14-3 他	97.22
13号地. 清水町堂庭字大六天 17-59	36.00

ウ. 管理 2. (6)を参照

(2) トラスト及びその他の公益事業推進のための募金活動

ア. 寄附金の受付

- ・領収書及び礼状、新聞の発送
- ・寄附者の名簿の作成
- ・寄附状況の集計及び公表（毎月1回）
- ・寄附金合計が約1億5千8百85万円（約30万円増）になった。

イ. 街頭募金活動

- ・柿田川公園にて計10回（4月13日、5月11日、6月22日、7月13日、8月2日、9月14日、10月12日、11月16日、3月15日）に実施（12月20日は雨天中止）

2. 環境保全事業（公2）

（定款第4条(2) 柿田川湧水群及び流域の環境保全活動）

（1）種の保存活動

ア. ミシマバイカモの保存

- ・アシ及びオオカワヂシャ及びノハカタカラクサ等の除去（外来種除去）

ミシマバイカモの生育の為に、日照を阻害するアシ及びオオカワヂシャ及びノハカタカラクサ等の除去を国交省、清水町、業者、一般ボランティアの協力を得て、年12回実施した（4月26日、5月24日、6月14日、6月28日、7月12日、7月26日、8月9日、8月23日、9月27日、10月11日、11月22日、3月28日）（5月10日、9月13日、10月25日、12月20日は雨天中止）。2017年度以降、生育が速い時期は月2回除去した結果、良好な環境を実現できたためか2025年度はミシマバイカモの生育面積は増加している（詳細は3(2)参照）。また、月2回の除去では取り切れないところについては、国土交通省が業者に依頼し、その場所や優先順位についてはトラストが指示した。

- ・ミシマバイカモの移植

上流部の生育状況を見て、外来種除去作業後にミシマバイカモの種を上流部へ適宜移植した。

イ. ナガエミクリの保存

- ・ナガエミクリの日照確保

トンボ調査時に中流左岸の樹木の枝を切り、ナガエミクリの日照を確保した。

- ・ナガエミクリの保存

教材園周辺のナガエミクリを保護するために、ナガエミクリを切らない様に申し入れている。また川の整備をするときにはトラストのメンバーが立ち会う。

- ・ナガエミクリの移植

国土交通省が試していたので、トラストとしては上中流部への移植は実施せず。

- ・コカナダモの除去

2025年度は工業用水取水場周辺にコカナダモはほとんど見られなかった。

ウ. ホトケドジョウ、トンボ類、ホタル類のための環境整備

- ・中流左岸のビオトープ近辺のカサスゲを除去し、トンボ類の繁殖環境を整備した。また、ヘイケボタル、ゲンジボタルの繁殖環境を整備した。

エ. アユ産卵の環境整備

舟付場にあるアユの産卵床は礫も出現しており水深も深いので、今年は整備不要と判断した。

オ. ナガエツルノゲイトウの除去

特定外来種ナガエツルノゲイトウの除去を国交省主体で行なっているが、未だに生育を確認している。繁茂場所は変わっていないが根絶に苦戦。遮光シートで渴死させる方法を継続中。

カ. 竹林整備

公園内竹林の拡大を防止するため、4月12日2名で10本、4月12日2名で10本、4月15日4名で20本、4月16日2名で9本、4月20日6名で30本、5月11日2名で8本の古竹、若竹、タケノコの伐採を行ない整備したが、例年よりも回数が少なかったためか、孟宗竹の本数がやや増えた印象がある。

（2）柿田橋周辺の環境美化保全活動

2025年8月31日と翌年3月20日に柿田橋周辺のゴミを拾い環境美化を実施した。

(3) 清水町よりの受託事業

清水町受託事業として柿田川監視パトロール活動について数名が委託を受け、延100回／年の巡視活動をした。

(4) 柿田川周辺の巡視活動((3)を含む)

平日は2～3名、土日・祝日は数名が巡視した。

(5) 標識・看板等の維持・管理

買上げ地に付けた番号を記した看板のデザインを検討し、見積をとった。会員の合意・了承を得た後で発注する予定。

(6) 買上げ地の整備

外来種除去作業の際に、対象地の外来種を除去し、一部をビオトープにしている。

(7) 流域周辺の整備

国道1号法面対策については、歩道と公園との境界にアスカーブ(縁石)を設置して水の進入を軽減し、2次災害を防ぐ対策を実施済み。また、崩落箇所の対応については、監視は引き続き実施しつつ、対策を実施できる様に調整中。

(8) トラスト取得地倒木対応

4月22日(火) 当会、財務局、家の持ち主、町とで現状を確認した。

5月14日(水) 官地と混在していたため財務局と費用折半で実施することにした。

6月30日(月) 財務局手配の業者により倒木を伐採、トラスト地に放棄した。

民家の樹木が駐車場に被さっている件は未解決。

(9) 東電樹木伐採立ち合い

7月22日から4日間、東電の業者が送電線付近の樹木伐採を行なった。当会2名参加。

3. 調査研究及び情報収集事業(公3)

(定款第4条(3) 柿田川湧水群及び流域の自然環境保全及び活用に関する調査研究並びに情報の収集)

(1) 柿田川の水質調査

4月15日、10月8日、第一展望台下湧水口で実施。今年度から年2回に変更した。

かつて問題になった塩素系有機溶剤は検出されず水質は良好。2021年度まで、最上流部の湧水口から大腸菌が時折検出されていたが2022年度から2025年度にかけては12回の検査で全く検出されず良好。一般細菌も4月15日、10月8日共に検出されなかった。しかし、BODは、2024年10月8日には0.7mg/Lだったが、2025年4月15日には0.5未満、10月8日には1.7で10月の数値が若干増加している。道路北側の排水の影響か。

(2) 動植物調査、その他一般調査の実施

・野鳥調査 2025年度は9回実施(4～3月)。

4月19日に22種、5月18日に19種、9月23日に17種、10月18日に19種、11月16日に27種、12月28日に27種、1月10日に25種、2月22日に26種、3月15日に24種の野鳥を確認した。

・ミシマバイカモの状態調査

8月31日に行なった動植物調査では、ミシマバイカモの生育面積は2558㎡で、前年比34%(655㎡)増だった。今年も異常高温が続いたせい、浅い所では藻類に覆われているも

のが多かった。

今年は昨年比べて上流、中流、下流共に増加し、2021年の最盛期の約48%まで回復。

上流部、中流部は行政も参加した外来種除去の効果が出て、オオカワデシヤの繁茂は抑えられ、ミシマバイカモにとっては良好な状態を維持している。

上流部と中流部に関しては、外来種除去の際には、外来種を入れたネットは抱えて運び、川の中を引きずらないこと、また、川の中の小さなミシマバイカモを踏まない様に気を付け、水に親しむ集いは人数を制限した為か面積の増加が見られるので、継続したい。

・ナガエミクリの状態調査

8月31日に行なった動植物調査では、ナガエミクリは1167㎡で前年比46%(983㎡)減だった。上流部はほぼ昨年並み。中流部は教材園の上流は樹木の高枝のせいで日陰になり、生育面積がやや減少している。下流部は教材園近くの中州のナガエミクリが減少している。

さらに教材園より下流の中州近辺から工業用水場取水口付近までのナガエミクリは大幅に減少している。工業用水取水場より下流の左岸と右岸は、枝が水面に垂れ、左岸は葛の葉が枝に絡みつき日陰をつくり生育を阻害しているため、両岸共、伐採が必要。柿田橋近くの右岸では川の中に人が入り歩いていた。会員がいるときは注意できるが、いないときが心配。そのせいか、生育面積が大幅に減少。また、下流右岸にツリフネソウが繁茂して日陰になっている個所があるので、伐採が必要。トータルでは昨年より980㎡程減少しており、対策の検討、実施が必要。

・トンボの調査

今回もアオハダトンボの確認は出来ず。2020年以降確認ができておらず、柿田川では絶滅と言わざるをえない。ハグロトンボは昨年と比べて激減。下流域の減少が特に大きい。日陰で暑さを避けている可能性がある。アサヒナカワトンボは橙色型、無色型共に微減だった。

国交省との合同調査からやはり出現のピークが5、6月になったと思われる。

暑さを避けて日陰に潜む個体もあると思われるが、昨年までの9月以降の国交省との合同調査結果からも増加傾向が見られないことからそれが裏付けられている。

・国土交通省と合同でトンボ類の調査を実施した。上流から下流まで調査し、4月16日は3種80頭、5月19日は4種323頭、6月16日は5種284頭、7月22日は12種275頭、8月31日は12種246頭、9月16日は11種576頭、10月20日は6種272頭、11月17日は5種144頭だった。

・産卵アユの調査 狩野川から入ってきた10月下旬から産卵が終わった12月上旬迄、調査したが、今年度もアユの遡上が少なかった。

・絶滅危惧種のウツセミカジカは2016年度以降、毎年、生息を確認。

・絶滅危惧種のホトケドジョウが減少してきており、保護活動を行なう必要がある。

(3) (公社)日本ナショナル・トラスト協会第43回全国大会

12月6日、全国大会が開催され当会からは6名が参加した。妻籠は来訪者の国別の統計を取っていた。軽井沢は様々なプロモーションをアピールしていた。清瀬市長が来て行政として行なっている積極的に緑地を増やす運動の紹介があった。

(4) 柿田川生態系研究会(国土交通省主催)への参加

2025年度は開催されなかった。

4. 普及啓発事業(公4)

(定款第4条(4) 柿田川湧水群及び流域の良好な自然環境及びその保全活動に関する普及啓発)

(1) 自然観察会の開催

・4月6日(日)、春の観察会 16名参加。

雷注意報が出ていたが雷には遭わなかった。気温低めだったので生き物は少なかった。

- ・ 7月27日（日）、水に親しむ会 21家族60名が参加。
柿田川を理解できると大好評だった。慣れた参加者は川岸の草が茂っている所で川魚を沢山採れたが、初参加の家族があまり採れなかった。加和太建設から飲み物差し入れ、保冷パックの寄付、オオカワヂシャ回収の協力があった。
- ・ 8月10日（日）、夏の観察会 荒天のため中止した。
- ・ 8月30日（日）、ふじさんネットワーク主催 富士山の恵み柿田川自然観察会 59名参加。
ミシマバイカモへの影響を減らす為、参加者を例年より減らしたが、参加者への説明、川で採取した生き物の説明および捕り方のレクチャーを行ない、参加者には好評だった。
- ・ 11月30日（日）、アユの産卵観察会 40名参加。当日、舟付場にアユの遡上は無く、産卵を観察できなかった。映像、写真で生態説明を行なった。
- ・ 2月11日（水、祝）、野鳥観察会 荒天で中止。

（2）研修会（学習会）の開催

- ・ 日帰りできる適切な研修先が見つからず、昨年に引き続き、今年度も中止した。

（3）ライブラリーの整備

- ・ スライドの整備、撮影した写真の整理を行った。また、各種行事、動植物、柿田川に関連するテレビ番組の放映の録画を行った。

（4）普及啓発誌の発行

- ア. 「柿田川だより」の発行 4月、7月、11月の3回 各500部
賛助会員、友好団体、関係官庁、学校、図書館等に配付。
- イ. 新聞「柿田川」の発行 年1回発行（1月） 5,000部
賛助会員、友好団体、自然観察会参加者、関係官庁、学校、図書館等に配付。
また、地域住民、街頭募金者にも配布。

（5）図画映像の制作・普及

- ア. DVDの制作・普及
創立20周年事業として柿田川自然保護の会と協同制作したDVD第1版に続き、DVD第2版の製作のためのコンテンツ収集は完了し、編集作業を実施しているが、ヤマセミ、アオハダトンボ以外にも、ホトケドジョウ、ゲンジボタル、カヤネズミなど、生息状況が撮影時とかなり変わってしまった点があるので見直し中。
- イ. 絵葉書（「清流柿田川」、「柿田川と四季の富士山」）の普及（販売）
今年度は増刷なし。「清流柿田川」を29部、「柿田川と四季の富士山」を31部販売し、各3部ずつ贈呈した。

（6）説明板の設置・補修

- 2025年度は補修が不要だったため補修せず。

（7）インターネット上の柿田川ホームページ拡充

柿田川の概要説明、トラスト会員募集、活動状況、行事予定等を掲載し、柿田川の自然保護を訴えるインターネットのホームページを拡充・活用し、適宜、内容を更新している。

（8）フェイスブックページの拡充

柿田川の動植物、景色、活動予定、活動の様子を画像・文章で紹介しボランティアも募集。

5. 湧水量及び流量の維持向上事業（公5）

（定款第4条(5) 柿田川湧水群の湧水量及び流量の維持向上）

（1）柿田川の流量調査（於・柿田橋上流30m地点）

- ・ 8月31日、99.8万トン/日（前年同時期より0.4万トン減少）

上記流量に上流の飲料水、工業用水汲上量（16.9万トン）を加算すると湧水量は116.7万トン/日（前年同期比0.5万トン減少）だった。過去5年平均は122.4万トン/日、過去10年平均は120.4万トン/日なので、過去平均より3～6万トン/日程少ない。

- ・ 3月20日、90.3万トン/日（前年同時期より1.9万トン減少）

上記流量に上流の飲料水、工業用水汲上量（16.7万トン）を加算すると湧水量は107.0万トン/日（前年同期比1.9万トン減少）だった。過去5年平均は114.4万トン/日、過去10年平均は114.0万トン/日なので、過去平均より5万トン/日程少ない。

（2）水源地植樹

ア. 「柿田川・東富士の地下水を守る連絡会」の活動への参加

漆畑会長が代表幹事として、他2名が幹事として連絡会の活動に参画した。

イ. 柿田川地下水源の涵養林育成（アの活動の中の打ち合わせ以外の活動）

【新規植樹（補植）】

- ・ 4月29日の植樹は参加者173名で、区画1に大苗94本を、区画2, 4, 5の鹿網内に小苗189本を植えた。高校生（沼工、沼商）48名が参加し、大苗搬送を協力してくれた。
- ・ 12月5日、清水町地域交流センターにて柿田川・東富士の地下水を守る連絡会幹事会を開催し、今年度の事業報告と会計報告を行なった後、活動予定と予算案が提示された。現在の植樹地の補植継続を検討し、5年継続を決定した。森林管理署が新たな候補地を挙げてきたが、涵養林と外れた場所なので辞退した。沼工山岳部、沼商へ感謝状を提案した。
- ・ 2月19日に沼工山岳部に感謝状を贈呈した。

【既存の植樹地の保全及び地ごしらえ等】

- ・ 4月4日に植樹の事前打ち合わせを行ない、各団体参加者見通し、作業手順などを確認した。
- ・ 8月1日に柿田川・東富士の地下水を守る連絡会を開催し、下草刈り、防護柵補修、どんぐり拾いなどの今後の予定と来年の植樹地、参加メンバー高齢化などを検討した。
- ・ 9月20日、小苗を植えた区画2と区画5の3か所の草刈りおよび区画5の網補修を行なった。
- ・ 1月17日、沼津市大平政戸地区(狩野川左岸河川敷)にて、苗木支柱用の竹を500本と、小苗支柱用の竹200本、かつぎ棒用の竹50本を作成し、植樹範囲を示す為の竹を伐採した。
- ・ 2月7日、19名で植樹用大型苗木70本を根巻きした。
- ・ 3月21日、大苗62本と小苗116本を苗上げして仮植えし、植樹予定区画のカヤを刈り、大苗植樹用の竹支柱を立てる地ならしを実施。区画2-2のシカ網は老朽化していたので撤去し、植樹のときに張り替えることにした。

【富士山麓に植える苗木を育てる為のドングリ拾い】

- ・ 11月1日に第1部ドングリ拾い、第2部沼工山岳部のガイドによるハイキングの2本立てで行なった。一般参加予定8名だったが、雨天順延や当日クマの情報があり全員不参加となった。今回は32名が参加し、西臼塚駐車場から寄生火山の西臼塚までクマ対策をして、どんぐりを拾いながら歩いたが、不作だった。

6. 行政・他団体との協力・連携事業（公6）

（定款第4条(6) 行政及び他団体との協力及び連携）

（1）国土交通省との共同事業

- ・国土交通省(沼津河川国道事務所)との連絡会
2025年度は開催されなかった。
- ・柿田川自然再生検討会、柿田川シンポジウム
柿田川自然再生検討会は書面にて開催された。国交省はナガエツルノゲイトウ生息地に遮光シートを設置して柿田川のナガエツルノゲイトウを撲滅する対策を継続中。

（2）清水町柿田川公園検討委員会への参画

- ・2025年度は一度も開催されなかった。

（3）その他の協力・連携

ア. ふじさんネットワークへの参加

- ・6月21日、総会が沼津プラザヴェルデで開催され、2024年度事業報告/決算、2025年度事業計画/予算等の審議・承認が行われた。
- ・3月14日、幹事会が沼津プラザヴェルデで開催され、2025年度事業報告、決算、2026年度の事業計画、予算等が報告された。

イ. 日本ナショナル・トラスト協会理事会・総会等

- ・5月22日、第1回理事会が行われ、事業報告、決算、予算変更について決議が行われた。
- ・6月10日、総会が開催され、2024年度事業報告、決算、2025年度予算が承認された。
- ・3月23日、第2回理事会が行われ、2026年度事業計画、予算を審議した。

ウ. マスコミ取材等への協力

- ・新聞・雑誌、テレビ、ラジオの報道の取材に対し、報道の中で自然保護を訴えた。
(テレビ朝日、読売新聞、静岡新聞、中日新聞 他)

エ. 柿田川公園保全（湧水保全の会主催）

- ・7月19日、約200名が参加。清水町、湧水保全の会との共同作業。当会7名参加。
- ・3月14日、約200名が参加。清水町、湧水保全の会との共同作業。当会5名参加。不要な伐採等行われないう注視しながら作業を行なった。

オ. 2号排水路ヒューム管撤去

- ・6月17日に2号排水路撤去調整会議を行ない、9月に調査して撤去することを決定した。
- ・8月8日～12日に2号排水路ヒューム管の撤去作業が行われ、立ち会った。

カ. 湧水祭への参加

- ・8月2日に開催され、当会は、柿田川自然保護の会と共に、パネル展示、動画放映、クイズ、募金等を行ない、記念シールを配付した。

キ. 他団体による外来種除去作業

- ・9月6日に、ロータリークラブ及び関係者90名が外来種除去作業を行なう予定だったが、前日の大雨による水位上昇のため、柿田川に入らないこととなり対応不要と町から連絡があったため対応せず。

ク. 環境審議会

- ・3月9日、清水町環境審議会が開催され、当トラスト理事が委員として参加し、26年3月に策定された町の最高上位計画である第5次総合計画に合わせ、25年3月に策定された環境基本計画の計画期間の延伸及び目標値の修正を一部行った。

ケ. 柿田川自然保護の会50周年記念事業への参画

- ・実行委員会 4月26日(土) 第一回の実行委員会を実施。それぞれの担当を決めた。5名を中心として50年誌、パネル展を優先的に進めて行くこととした。
パネル展を12月5日～7日に開催した。静岡新聞と朝日新聞に記事が出たせいか、216名の来場があった。50年誌を300部作成した。出張講座を10月2日、14日、21日、11月11日に小学3年3クラスに行ない地図作成に協力した。50周年シールを作成し外来種除去作業に参加した中学生や水に親しむ集い湧水祭に参加した子供達に配付した。グッズ作成等を行なった。

コ. 県知事との面談

- ・12月26日に県知事に面会して50年誌を手渡し、柿田川の自然保護活動の状況や課題について説明した。

7. その他目的を達成するために必要な事業

(定款第4条(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業)

(1) トラストに対する税制優遇の推進

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会が環境省、自民党に働きかけているが、実現していない。

8. 法人管理

(1) 賛助会員募集

ア. 賛助会員募集

柿田川新聞やホームページ等で賛助会員を募集。現在、賛助会員数は団体2、個人は165名。5年以上会費の納入がない21名と3団体と希望者6名は退会し、入会者は6名だった。なお、ネット決済サイトからの入会者は3名だった。

イ. 賛助会員、募金者への対応業務

募金者と団体会員に対して、領収書及び礼状、新聞、柿田川だよりの発送を行っている。本年度に会費を納入したのは、個人は99名。団体は2団体だった。なお、クレジット決済による賛助会費納入者は10名だった。また、賛助会員新制度に向けた検討を開始した。

(2) 評議員会・理事会の開催

ア. 事務局会議 (清水町地域交流センター)

- ・5月10日(土) 18:00～19:00 2024年度事業報告、決算報告の内容確認を行なった。
- ・3月14日(土) 18:00～19:00 2026年度事業計画書、予算を検討した。

イ. 理事会 (清水町地域交流センター)

- ・5月29日(木) 19:00～20:00
2024年度事業報告書および決算報告の審議・承認を行なった。
- ・11月8日(土) 18:00～19:00 業務執行理事の執行状況報告及び半期決算報告を行なった。
- ・3月18日(水) 10:00～11:40 業務執行理事による執行状況報告を行ない、

- 2026年度の事業計画書、収支予算等の審議を行ない、承認した。
- ・理事懇談会を毎月、計12回開催した。

ウ. 評議員会（清水町地域交流センター）

- ・6月14日（土）18:00～19:10

2024年度事業報告書および決算報告の審議、承認、及び、倒木対処費用抛出に関する承認を行なった。

(3) 事業計画書・予算、事業報告書・決算の作成

5月の理事会、6月の評議員会に向けて、5月10日（土）事務局会議で2024年度の事業報告書・決算を作成し、5月20日（火）決算、事業報告の内部監査を行なった。3月の理事会に向けて、3月14日（土）事務局会議で2026年度の事業計画書・予算の検討を行なった。

(4) 行政庁への報告・届出書の作成

指定された期日までに滞りなく報告・届出書を作成した。

- ・2024年度の事業報告書・決算は、2025年6月24日に県に提出した。
- ・2026年度の事業計画書・予算は、2026年3月23日に県に提出した。

以上